

令和5年度 研修紀要

第37号

翠 松

知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成

～深い学びを実現するための支援の工夫を通して～

沼田市立沼田東中学校

研修の概要・成果と課題

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成
副主題 ～深い学びを実現するための支援の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・ 目指す生徒像を明確に示したことで、深い学びを達成した生徒の姿が少しずつ見られるようになってきた。
- ・ 生徒の思考力や表現力などが不十分で、学びが深まらないことがあった。

指導の在り方との関わり

- ・ 引き続き、深い学びを達成した生徒の姿を各教科で明確にしていく必要がある。
- ・ 生徒の思考や態度の変容に焦点を当て、それにつなげるための具体的な支援の工夫を検討する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・ 各教科で身に付けた知識・技能を、問題解決の場面等で相互に関連付けながら、教科の見方・考え方を働かせて活用することができる。
- ・ 見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、他教科や社会生活で生かそうとすることができる。

(2) 共通実践する手立て

- ・ 深い学びを達成した姿を客観的に判断するために、各教科で深い学びが達成された生徒の姿を具体的に示し、それを元に単元や題材で生徒が深い学びを達成した姿を明確にする。
- ・ 生徒の思考や態度の変容が見られることを深い学びが達成された姿の入り口とし、教科ごとの見方・考え方を働かせて知識・技能を活用しているかどうかで学びの深まりを判断する。
- ・ 生徒が深い学びを達成できるよう、ICT 機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。

3 研修計画・経過報告 <次ページ>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 生徒の思考や態度の変容が見られることを深い学びが達成された姿の入り口としたことで、授業研究会の際に同じ視点で議論することができた。
- ・ 自他の考えを比較しながら参考になるものを取り入れ、考えを深められる生徒が増えてきた。

○課題

- ・ 生徒の思考の流れを可視化する必要性に気付かされた。ワークシートや ICT 機器の活用、板書の工夫等によって生徒の思考の流れを可視化することで、生徒自身も自らの変容に気付くことができ、深い学びの達成につなげることができるため、積極的に活用できるとよい。
- ・ 課題設定や教材の工夫、思考ツールの活用等の様々な支援の工夫により、生徒の思考を深い学びへ向かわせることはできたが、活用できる段階まで十分に知識・技能を定着できていないという生徒の実態により、深い学びを達成できなかった場合もあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 知識・技能の定着に向けた繰り返し学習を充実させ、全体的な学力向上を図る必要がある。
- ・ 深い学びを達成するために、思考力・判断力・表現力を高める工夫を考える必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.17	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・副主題は「深い学びを実現するための支援の工夫を通して」に決定。
5.8	・各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討 (教科部会での確認) ・指導案の形式の確認
5.29	・年間授業予定、組織編成 ・授業者の確認 ・要請訪問Aに向けて	・研修計画等の確認 ・1人1授業、要請訪問Bの授業者の検討 ・1人1授業の授業実践について
6.5	・指導主事要請訪問A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6.13	授 数学科 田村教諭	○条件を不足させる課題設定の工夫 ・方程式が解けないという体験を全員で共有できたため、本時の学習のめあてに向けて取り組めた。
6.19	授 社会科 津久井教諭	○思考ツールを活用して思考を可視化する工夫 ・りんごの木チャートを活用することで、生徒の思考の流れや考えの変容を見取ることができた。
6.19	・指導主事要請訪問Aを受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
6.27	授 音楽科 中村教諭	○曲を4部に分割して音楽の特徴を考えさせる工夫 ・思考の言葉を掲示し、4部に分けて鑑賞したことで、深く感受して考えることができた。
7.19	授 英語科 林教諭	○英会話を想定したキーワードの準備の工夫 ・事前にキーワードを準備することで、積極的に英語を用いてコミュニケーションできていた。
9.4	・2学期の予定 指 要請訪問B指導案検討①	・2学期の研修予定について ・要請訪問Bまでの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9.19	指 要請訪問B指導案検討②	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・ねらい、指導計画、評価項目等について ・深い学びにつなげる支援について
9.27	授 理科 小幡教諭	○視覚的に分かりやすい観察教材の工夫 ・コーヒー粒が溶ける様子をじっくり観察させたことで、現象を自分なりの言葉で表現できた。
10.2	授 理科 篠澤教諭	○複数の実験結果から比較するものを考察する場面設定の工夫 ・どの実験結果を比較するかを話し合わせたことで、対照実験の意義を理解し、根拠を示して考察できた。
10.2	指 要請訪問B指導案検討③	・単元構想、教材観について ・めあての提示から振り返りまでの1時間の授業の流れについて
10.3	授 数学科 町田教諭	○ICT機器を活用した支援の工夫 ・ロイロノートで個別にヒントカードを配布することで、生徒の進度に応じて支援することができた。
10.18	・指導主事要請訪問B 授 国語科 登坂教諭	○文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせる課題設定の工夫 ・教科書の物語とは違う展開を考えさせたことで、物語に凝らされた様々な工夫に気付くことができた。 ・ICT機器を効果的に活用したことで、短時間で交流することができ、考えを深められた。

10.24	授 社会科 高橋教諭	○ジグソー法を用いた学習形態の工夫 ・テーマごとに班を分け、調べた内容を補完し合うことで、貧困問題の原因を多面的に考察できた。
11.13	・B訪問を受けて	・B訪問を受けて、今後の校内研修の方向性の確認
11.30	授 保健体育科 星野教諭	○ICT機器を用いて、チームの課題を考えさせる工夫 ・試合の様子を動画で撮影し、それを見ながら考えさせたことで、チームの課題を見付けやすくなった。
12.11	・アンケート、研修紀要について	・アンケート配布 ・研修紀要（翠松）について
12.12	授 道徳科 高坂教諭	○ホワイトボードを活用した意見交流の工夫 ・ホワイトボードでグループの意見を集約、整理したことで、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを深めることができた。
1.22	・アンケートのまとめ	・成果と課題、生徒の変容の確認 ・沼田市の教育について
2.19	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5.22	メンター研修①	メンター研修担当	・評価システムの紹介及びその使い方について
5.29	学校保健に関する研修	養護教諭 榎渕 窓	・救急体制、アレルギー対応、熱中症対応について
6.19	学習指導に関する研修	全職員	・振り返りの紹介及びアドバイス
6.26	メンター研修②	メンター研修担当	・成績処理について ・成績処理以外の副担任の仕事や役割について
7.3	生徒指導に関する研修	スクールカウンセラー 小林 一郎	・ゲーム依存について
8.28	メンター研修③	メンター研修担当	・運動会に向けて
10.16	メンター研修④	メンター研修担当	・三者相談の進め方について
11.13	学校保健に関する研修	養護教諭 榎渕 窓	・嘔吐物処理について ・感染症対策について
11.13	学習指導に関する研修	全職員	・各教科の振り返りについて ・学力向上に向けた取組について
12.18	メンター研修⑤	メンター研修担当	・進路指導について

＜実 践 編＞

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 数 学
- ・ 理 科
- ・ 英 語
- ・ 音 楽
- ・ 保 健 体 育
- ・ 道 徳

目指す生徒像（令和５年度）

沼田東中学校

目指す生徒像の全体像

○見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、他教科や社会生活で生かそうとすることができる生徒。

各教科における目指す生徒像

国 語	○言語活動を通して、言葉がもつ価値を認識するとともに言語感覚を豊かにし、自分の考えを適切に表現しながら伝え合う力を高めたり、思考力や想像力を養ったりして、その力を社会生活で生かすことができる生徒。
社 会	○習得した知識・技能を活用し、社会的な見方や考え方を働かせながら考えたことを、友達と交流する活動を通して、深めることのできる生徒。
数 学	○数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを主体的に活用して事象を他者の考えを取り入れながら論理的に考察したり、考えたことを他のことに応用しようとしたりする生徒。
理 科	○知識・技能を活用し、見通しをもって観察・実験を行い、自分の考えをまとめたり、話し合ったりしながら、自然科学の法則や概念への理解を深めることができる生徒。
英 語	○友達の考えを取り入れながら、既習の語句や文を用いて自分の考えや気持ちを、相手の分かりやすい表現を考えながら、伝え合うことができる生徒。
音 楽	○身に付けた知覚と自己の感受を関わらせる、音楽的な見方や考え方を働かせて主体的に考え、その意見を他者と伝え合うことで、音楽表現の創意工夫をより深く追求したり、曲のもつよさをより深く感じたりすることができる生徒。
保 健 体 育	○身に付けた知識や技能をもとに、互いに学び合う中で、課題解決の仕方を工夫し練習や試合に取り組み、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる生徒。
道 徳	○道徳的諸価値についての理解を基に自己の生き方を多面的・多角的に見つめ直し、主体的な判断の下に行動しようとし、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる生徒。

国語科の実践 I

授業の視点

事前に設定した3つの転換点について「もしも～だったら」の展開を想像し、それらを共有させる活動を取り入れたことは、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える上で有効であったか。

単元名「古典に学ぶ」

教材名「平家物語」〔学指要領：知(3)ア、イ 思C(1)イ、エ、オ〕

令和5年10月18日(水) 第5校時 2年2組教室
2年2組 17名 指導者 登坂 俊介

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(3)ア ・ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(3)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朗読はできるが、作品の特徴を生かした朗読をできる生徒は少ない。 ・ 古典の学習では、歴史的仮名遣いに注意しながら読むことができるが、リズムや表現に注意しながら読むことができる生徒は少ない。 ・ ほとんどの生徒が現代語訳を参考にして、古典に表れたものの見方や考え方を探ることができる。 ・ 歴史的背景やテーマに着目しながらものの見方や考え方について考えることが苦手な生徒が数名いる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。C(1)イ ・ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。C(1)エ ・ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。C(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の言動の意味などを考えられる生徒は数名しかいない。 ・ 古典の学習では登場人物の言動と歴史的背景を結び付けて考えることができる生徒は少ない。 ・ 文章を比較したり、文章に凝らされた工夫を見付けたりできる生徒が少ない。 ・ 観点を明確に指定すれば意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ・ 考えたことを自らの言葉でまとめたり、知識や経験と結び付けたりすることが苦手な生徒がいる。 ・ 古典に表れたものの見方や考え方と自らの知識や経験を結び付けることが苦手な生徒が多い。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元、本時の学習に見通しをもって取り組むことができる生徒が多い。 ・ 進んで自らの思いや考えを発表することができる生徒が限られている。

2 評価規準

知識・技能	<ol style="list-style-type: none"> ① 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア ② 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> ① 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。C(1)イ ② 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。C(1)エ ③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。C(1)オ <p style="text-align: right;">※太字に重点を置く。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> ① 進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

3 単元設定の理由

(1) 教材について

①教材の価値

本教材は国語科における学習指導要領、知識及び技能の(3)ア、イ、思考力、判断力、表現力等のC(1)イ、エ、オについて学習できるものである。

本教材は平家一門の栄枯盛衰が和漢混淆文で語られている。琵琶法師によって語られた成立経緯があるため、リズムを伴った音読の工夫をすることが求められる。また、「敦盛の最期」では敦盛のプライドや潔い態度、熊谷の後悔の念など各場面で当時の武士としての生き方を感じることができる教材となっている。現在と異なる価値観、現在と変わらない人間の姿の双方に接することができる点からも優れた教材だと考える。

本時では「もしも～だったら」の展開を想像し、友達と考えを共有する言語活動を通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせたい。ただ転換点に着目させて考えさせるのではなく、平家物語を貫く「諸行無常」「盛者必衰」のテーマに観点を置いて、考えさせることによって平家物語にどのような構成の工夫や展開の工夫、表現の工夫が凝らされているのかを理解することができると思う。

以上のことから転換点をあらかじめ指定し、物語の展開を考える活動を通して、文章の展開や構成の工夫について考えるのに適した教材だと言える。

②単元の系統性

1年次は「月を思う心」で本文の叙述をもとに要旨を把握すること、「竹取物語」で場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化を捉えること、「故事成語 矛盾」で文章構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることを学習してきた。

(2) 指導方針について

○つかむ課程

- ・作品の特徴を生かして朗読するために琵琶法師の朗読を聞かせ、リズムをつかんだ上で朗読させる。
- ・生徒の変容が分かるように、初発の感想を書かしておく。
- ・物語のテーマである「諸行無常」「盛者必衰」について詳しく調べさせ、平家物語全体を通してこのテーマが貫かれていることを確認する。
- ・歴史的背景を押さえる際に、鎌倉時代がどのような時代だったのか、平家物語と同時代に作られた作品はどのようなテーマの作品が多いかを確認する。

○追究する課程

- ・物語の内容を捉えさせながらどのような人物かを作品内の記述から予想させ、全体で共通理解を図る。
- ・「もしも～だったら」の展開を予想させる際に、あらかじめ平家物語のテーマに観点を絞って展開予想をさせる。
- ・展開予想の際に、なぜそのような予想をしたのかを説明できるように理由も一緒に考えさせる。
- ・物語の工夫を考える際に、自ら考えた展開予想と教科書本文の展開を比較させ、どちらが平家物語のテーマに沿った上で魅力的かを考えさせる。
- ・友達の考えと自分の考えを比較させる際に、観点(平家物語のテーマ)を示してから比較させる。
- ・振り返りを行う際に、本時のめあてが達成できたかを確認するために「物語の工夫」に焦点を置いて振り返りをさせる。

○まとめる課程

- ・平家物語全体を通してのまとめができるように、前時まで学習したことを確認する。
- ・自らの考えを伝え合う活動を通して、作品に表れたものの見方や考え方の共通理解を図れるようにする。
- ・生徒の変容が分かるように、初発の感想と振り返りに書かれた記述を比較させる。

4 指導及び評価(全6時間:本時第5時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	ねらい(○)と主な学習活動(・)	知	思	主	
つかむ	1	単元の課題 「もしも～だったら」の展開を想像し、文章の展開や表現の工夫について考えよう。		●	
	2	○古典のリズムを味わう活動を通して、平家物語を読むことができるようにさせる。 ・語句の意味に注意しながら音読し、古典のリズムを味わう。 ○平家物語について調べる活動を通して、平家物語のテーマ、歴史的背景を捉えさせる。 ・「諸行無常」「盛者必衰」について確認する。			

		<ul style="list-style-type: none"> ・「敦盛の最期」の歴史的背景を確認する。 ・登場人物の特徴を捉える。 			
追 究 す る	3	○平家物語の内容を捉える活動を通して、それぞれの人物像をまとめさせる。 ・大將軍を見付けたときの熊谷の気持ちについて考える。 ・敦盛を助けたいという熊谷の心情を捉える。 ・味方の軍勢が駆けつけてくるのに気付いたときの熊谷の心情について考える。 ・場面や状況を捉え、登場人物の行動や心情について考え、人物像をまとめる。	②	①	
	4				
	5 本時	○平家物語のテーマに沿って文章を比較する活動を通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせる。 ・「もしも敦盛が引き返して来なかったら」「もしも敦盛が若くもなく、美しくもなかったら」「もしも後ろから味方が来なかったら」の展開を想像し、文章の展開や表現の工夫について考える。		②	
ま と め る	6	○考えを伝え合う活動を通して、作品に表れたものの見方や考え方を知る。 ・冒頭と「敦盛の最期」を読み直す。 ・平家物語のテーマと「敦盛の最期」の展開をもう一度全体で比較する。 ・古典に表れたものの見方や考え方を捉え、自分の考えを伝え合う。	②	③	①

II 本時の学習 (5/6)

- ねらい 平家物語のテーマに沿って文章を比較する活動を通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせる。
- 準備 教科書、ノート、ワークシート、タブレット
- 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される生徒の反応 [S]	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p><めあて> 「もしも～だったら」の展開を想像し、文章や表現の工夫を見付けよう。</p>		<p>○本時のめあてをつかむことができるように、前時で学習した内容を復習する。</p> <p>○見通しをもって学習に取り組めるように、あらかじめ、本時の後半では自ら考えたことを友達と共有することを伝えておく。</p>
<p>2 観点(平家物語のテーマ)に沿って転換点ごとに展開を予想する。(20分)</p> <p>『もしも～だったら』の展開はどうなっていたかを考えよう。」</p> <p>S : どう展開予想をしたらよいか分からないな。</p> <p>1つ目の転換点に対する生徒の反応 「もしも敦盛が引き返して来なかったら」 S : そのまま引き返して来ないで逃げて終わりだろうな。</p> <p>2つ目の転換点に対する生徒の反応 「もしも敦盛が若くもなく、美しくもなかったら」 S : そのまま躊躇なく敦盛を殺し、手柄を立てて出世するだろうな。</p>		<p>○予想の視点が明確になるように最終的に敦盛や熊谷がどのようなのが平家物語のテーマに沿うかを考えさせる。</p> <p>○展開予想の視点がぶれないように平家物語のテーマをもう一度確認させる。</p> <p>○展開予想の工夫について考えられるように敦盛が熊谷の首を取るのをためらった理由を再度確認し、人物設定の描写の工夫に気付かせる。</p> <p>○展開予想の視点がぶれないように、逃げて終わりでは平家物語のテーマに沿う展開にならないことを確認し、どうなることがテーマに沿う展開なの</p>

<p>3つ目の転換点に対する生徒の反応 「もしも後ろから味方が来なかったら」 S：味方が来なければ敦盛は生きて平家に帰れただろうな。</p>	<p>かを考えさせる。 ○展開の工夫について考えられるように味方が後ろから来たことの効果について考えさせることにより、展開の工夫に気付かせる。</p>
<p>3 予想したものを共有する。(15分)</p> <p>「みんなの展開予想と自分の展開予想を比べて違いを探し、教科書の展開とどちらが魅力的か考えてみよう。」</p> <p>S：自分と同じような展開だな。 S：自分とは違った展開だな。 S：どうしてこのような展開予想をしたのだろうか。 S：この展開だとおもしろくないな。 S：教科書の展開が一番おもしろいな。</p> <p>「なぜ教科書の展開の方が魅力的なのか理由を考えよう。」</p> <p>S：自分の考えた敦盛より教科書の敦盛のほうがかっこいいから魅力的なのだろうな。 S：平家物語のテーマに沿って上手く展開が考えられているから魅力的なのだろうな。 S：自分が考えた展開よりあっさりしてなくて、深く考えられているからおもしろいのだろうな。 S：自分が考えた展開よりも心情の変化があるからおもしろいのだろうな。</p>	<p>○予想したものを共有できるようにロイロノートを使用する。その際に、参考になったり、共感したりしたものは自分のプリントに赤で記入させる。 【★共有】</p> <p>○展開予想を比較する際に、比較の視点がぶれないように平家物語のテーマから展開が逸れていないかということに着目させ比較をさせる。 ○物語の展開の工夫が考えられるように比較ができた生徒は展開予想したもの与实际の展開ならば物語としてどちらのほうがおもしろいかを考えさせる。 ○文章の構成や論理の展開、表現の効果に目が向くように、どのような工夫が物語に凝らされていたかを考えさせる。</p> <p>◆評価項目（思②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述内容から「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えているか」を評価する。
<p>4 本時の振り返りをする。(10分)</p> <p><まとめ・振り返り></p> <p>S：物語には様々な工夫が凝らされていてすごいと思った。転換点と平家物語のテーマは結び付いていることが分かった。自分も文を書くときには、今回学んだことを生かして文章を書いていきたい。また、本を読むときには転換点に注意して読んでいきたい。</p>	<p>○転換点での登場人物の行動が、平家物語のテーマと結び付いていることに気付くように、平家物語のテーマについてまとめたプリントに着目させる。 ○物語の工夫に焦点を置いて振り返りができるように振り返りの視点を明確にする。</p>

〔成果〕

- ◎振り返りに表れてほしい生徒の姿に書かれているような記述をしている生徒がいて、学習の深まりがあった。
- ◎前時の展開から本時のめあてを導き出して、学習の繋がりが見られた。
- ◎分からないことを分からないと言える学習環境が整っていてよかった。

〔課題〕

- 内容理解の部分をもう少し細かく指導してから本時の展開に入れば生徒の反応ももう少しよかったと思うので、単元構想をもう一度練り直す必要がある。
- 単元で指導したい内容、ゴールを明確にしてから指導することにより生徒の学習内容の理解や思考が深まるので、生徒の実態をよく見つつ、どのような支援が必要かをよく吟味していく必要がある。

社会科の実践 I

令和5年6月19日(月)第3校時
2年2組教室 指導者 津久井仁美

授業の視点

自分の考えを友達と交流させる場面を2回設けたことは、江戸幕府(徳川氏)の支配が長く続いた理由を幕府の諸政策などと関連付けて多面的に考察し、表現するのに有効であったか。

1 単元名 歴史

第4章 近世の日本 第2節 「江戸幕府の成立と対外政策」

2 本時のねらい

友達と考えを交流する活動を通して、江戸幕府(徳川氏)の支配が長く続いた理由を幕府の諸政策などと関連付けて多面的に考察し、表現できるようにする。

3 授業の流れ(全6時間予定 本時は6時間目 「まとめる」過程)

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援
<つかむ> 1. 本時の学習への見通しをもつ。	3	○ロイロノートで前時までに作成した「シンキングツール」をまとめて見られるように、準備させる。
【めあて】 今までの学習を振り返り、なぜ江戸幕府(徳川氏)の支配は長く続いたのか考えよう。		
<追究する> 2. 課題の解決に必要なキーワードを選び、友達と意見交流をする。 <交流1>	10	○単元の課題に対する自分なりの考えがまとめられるよう、本単元を通して使用してきたシンキングツール「りんごの木チャート」を使う。 ○「りんごの木チャート」のキーワードから、自分が必要と考えられるものを選び、分かりやすくするために、キーワードの色を変えさせる。 ○課題に対する自分の考えが深まるよう、交流では「なぜ、そのキーワードを選んだのか。」「なぜそれが支配の長期化につながるのか。」などを話し合うようにする。 ○時間があったら、グループでない友達とも意見交流ができる時間をとる。 ○交流後に増やしたキーワードは、色を変えて保存するようにする。
3. 単元の課題に対する自分の考えをまとめる。	10	○何も書けない生徒には、選んだキーワードを文章化できるよう、キーワードの意味や意義を確認するよう促す。 ○グループの友達と考えの共有ができるように、「りんごの木チャート」を提出箱に提出させる。
4. グループで考えを共有し、交流する。<交流2>	10	○意見交流が活発に行われるよう、1人の発表につき、必ず1回は発言することとする。 ○互いの考えを深められるよう、感想だけで終わりにするのではなく、キーワードやその意義、影響などに着目した質問やアドバイスなどもさせる。
5. 友達との交流を生かして、自分の考えを直したり、付け足したりし、考えを深める。	7	○交流を通して自分の考えが変わったことを分かりやすく見られるように、新たな結論を書く場所を、シンキングツールに設ける。 ○交流を生かして自分の考えを再構築できるよう、質問されたことやアドバイスを振り返り、まとめるよう促す。
<まとめる> 6. 単元全体のまとめをする。 7. 振り返りをする。	10	○ロイロノートで生徒の考えを共有させ、よいまとめができている生徒の「りんごの木チャート」を提示しながら、クラス全体のまとめをする。 ○単元の課題や本時のめあてを意識した振り返りができるよう促す。

【評価項目】(思考・判断・表現)

意見交流での生徒の発言や「りんごの木チャート」の記述から、「江戸幕府(徳川氏)の支配が長く続いた理由について、幕府の諸政策と関連付けて多面的に考え、表現できているか」を評価する。

〔成果〕

- ◎「りんごの木チャート」には、「予想」、「キーワード」、「結論1」、「結論2」を記入するようになっており、生徒の思考の流れや考えの変容が分かるような構成になっていた。
- ◎まずキーワードを選んで友達と交流し、次に考えをまとめて交流する、という2回の交流が効果的であった。
- ◎ICT機器の活用が考える時間の確保にもつながっていた。

〔課題〕

- 江戸幕府の行った政策の名称やその説明だけで交流が終わってしまう場面もあった。政策の意図や影響などにまで踏み込んで話し合えるとよかった。単位時間の歴史的事象の押さえをしっかりと行う必要がある。
- 自分の考えを書くのが難しかった生徒もいた。他の生徒から出た意見を途中で紹介したり、結論の文例を見せたりできるとよかった。
- 板書の工夫が必要。板書があると理解が進む生徒もいる。1時間の授業で何を学んだのか、流れが分かるような工夫ができるとよかった。
- 生徒の思考の流れを指導案に記述した方がよかった。

社会科の実践Ⅱ

令和5年10月24日 第5校時 1年1組教室
1年1組 指導者 高橋 浩美

【校内研修】本時における深い学びを実現するための〈授業の視点〉

ジグソー法のような学習形態を取ることで、資料を絞って一人一人にじっくり読み取らせたと、ジグソー班ごとに話し合う活動を設けたことは、アフリカ州の特色と貧困の課題を関連付けて考察し、表現するのに有効であったか。

【研究所】の手立てにおける〈授業の視点〉※手立ては①②の2つ

①つかむ過程において、前時の振り返りで生徒が書いた「なぜ貧困問題が起きているのか」の予想を提示したことと、②まとめる過程において、視点を提示して振り返りをさせたことは、生徒が学習に意欲的に取り組むために有効であったか。

1 単元名 「世界の諸地域～アフリカ州」[学指要領:B(2)、ア(ア)(イ)、イ(ア)]

単元の問題:アフリカ州は、植民地支配を受けた歴史や自然環境により、どのような課題を抱え、日本にいる私たちには何ができるだろうか。

2 本時のねらい アフリカ州の課題について調べたり話し合ったりする活動を通して、アフリカ州の特色と貧困の課題を関連付けて考察することができるようにする。

3 展開

【★ICT活用に関する事項】

研究の手立てに関わること

主な学習活動	主な発問	予想される生徒の反応 [S]	○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)		<p><めあて>アフリカ州では、なぜ貧困問題が起きているのだろう。</p> <p>S:砂漠化の影響について調べたいな。 S:コーヒーやカカオ以外の農業について調べないとね。 S:人口について書いている子は少ないけれど、アジア州と同じ問題があると思う。 S:紛争の問題は、歴史や文化と関係あるよね。</p>	<p>○ロイロノートの共有ノートに、思考ツール(Xチャート)を置き、前時に書いた「単元の課題解決に向けて調べたいこと」を共有する。思考ツールのまとまりごとに整理し、本時で調べることの見通しをもたせる。 【★提示】</p>
2 一人一人が砂漠化や農業、人口増加による都市問題、紛争の内1つのテーマについて、関連する資料を基に調べる。		<p>資料を読み取り、分かったことをまとめましょう。(15分)</p> <p>S:砂漠化の原因は、農業や牧畜も関係あるみたいだ。 S:自給のための農業もしているようだけれど、やはり輸出用の農業が多いな。 S:砂漠化から逃げるように他の都市に人口が集中するみたい。 S:民族の分布を無視した国境が紛争の原因になりそうだ。 同じテーマの友達と調べたことを確かめましょう。(5分)</p>	<p>○机間指導を行い、資料の主題名を確認させたり、読み取った情報から分かることを言葉で表現させたりする。 ○ロイロノートで調べたことについて写真を撮り、提出するよう指示をする。提出物を見ながら、同じテーマを調べている生徒同士で情報を補完・修正させる。 【★共有】</p>
3 異なるテーマを調べた生徒が班になり、調べた情報を伝え合い、アフリカ州の貧困問題がどのようにして引き起こされているのか話し合う。(10分)		<p>それぞれのテーマについて伝え合ひましょう。また、貧困問題はなぜ起きているのか話し合ひましょう。</p> <p>S:砂漠化が原因になっているね。 S:紛争の原因は、植民地支配にあるよ。紛争はどうやったらなくなるの。</p>	<p>◆評価項目(思)アフリカ州の課題について資料を基に調べたり話し合ったりする場面において、アフリカ州の特色と貧困の課題を関連付けて考察している姿を評価する。 ○班ごとに貧困問題はなぜ起きているのかについて話し合った内容をロイロノートで提出させる。【★共有・整理】</p>
4 学級全体で、班で話し合った情報を基にアフリカ州における貧困問題について考察する。(5分)		<p>【まとめ】アフリカ州では、植民地支配されたことによる国境やモノカルチャー経済、砂漠化による食料不足や人口の集中などによって貧困問題が引き起こされている。</p>	<p>○キーワードや発言し合ったことを基に、生徒に本時のまとめを記述させると共に、板書をし、共有させる。</p>
5 「学んだこと」と「次に学びたいこと」の振り返りを書く。(10分)		<p><次時に向けての振り返り></p> <p>S:モノカルチャー経済による食料不足からはどうやったら抜け出せるだろう。 S:日本でも気候変動は大きな課題だけど、砂漠化は本当に大変。環境問題に取り組むことかなあ。 S:募金活動で協力できると思うけれど。 S:自然を生かした観光だね。アフリカに行ってみたらどうだろう。</p>	<p>○Google スプレッドシートに、次時に調べたいことを整理するよう指示をする。 ○具体的にどのような視点で振り返るかスプレッドシートで示す。 ○生徒が本時の学びや次時の課題を自覚し、次時の活動の意欲をもてるように振り返りを共有し、本時の取組を賞賛する。【★一覧表示】</p>

〔成果〕

◎つかむ過程では、生徒の振り返りの記述を提示し、本時で調べることを生徒と対話したことで、生徒自身が事前に立てた単元の見通しに課題を追加し、解決の見通しをもつことができた。

◎追究する過程では、テーマごとに個人で調べさせたことで、意欲的に学習に取り組むことができていた。

〔課題〕

●追究する過程で使用したプリントが、生徒の実態に合っていなかった。生徒の実態に合わせ、本時のねらいに沿って資料や活動を精選する必要がある。

数学科の実践 I

令和5年6月13日(火) 第3校時
2年2組教室 指導者 田村晃宏

授業の視点

身近な問題を考察する場面において、条件不足の課題設定をしたことは、 $A=B=C$ の形の方程式の解の求め方を考える上で有効であったか。

1 単元名 連立方程式

2 ねらい

3つの異なる条件を組み合わせながら方程式の解について考える活動を通して、 $A=B=C$ の形の方程式の解の求め方を見いだすことができるようにする。

3 展開 (全16時間予定 本時は7時間目 「追究する」過程)

主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
・ウォーミングアップ 1. 次の課題を考える。	5 15	○加減法を使った連立方程式の解き方を思い出させ、授業への集中力を高めさせる。
Aさんはノート5冊とペン3本、Bさんはノート3冊とペン6本を買ったところ、2人の代金の合計が同じだった。ノートとペンの代金はそれぞれいくらでしょうか。		
$5x + 3y = 3x + 6y$ $2x - 3y = 0 \dots\dots ①$		○問題文通りに立式させ、整理しても解を求められないことに気付かせる。 ○解を求めるためには、2つの条件だけでは足りないことに気付かせ、他に何が必要かを考えさせる。
2. 本時のめあてを示す。		
<めあて>2つの条件だけでは解けない方程式について考えよう。		
3. 次の条件を加えて考える。		○問題文通りに立式するように伝える。 ○まずは個別で考えさせて、自分の考えをもたせる。
Cさんはノート4冊とペン2本を買ったら、2人より250円安かった。		
		○Cさんの条件から $4x + 2y - 250$ と立式している生徒はそのまま考えさせて、解が負になることから、間違えていることに気付かせる。
4. グループで話し合う。	20	○机間指導をしながら、適宜ヒントカードを送信する。 ○問題文を「CはAより250円安い」などと簡略化して立式するよう伝える。 ○問題文を整理してつくった②、③を連立して考えさせる。 ○早く解き終わった班は①との連立についても考えさせる。 ○説明で不足している部分を補う。
$4x + 2y = 5x + 3y - 250$ $-x - y = -250 \dots\dots ②$ $4x + 2y = 3x + 6y - 250$ $x - 4y = -250 \dots\dots ③$		
5. 考えを発表する。	5	
$\begin{array}{r} ②+③より \\ +) \quad -x - y = -250 \\ \quad \quad x - 4y = -250 \\ \hline \quad \quad -5y = -500 \\ \quad \quad \quad y = 100 \end{array} \quad \begin{array}{l} y = 100 \text{ を } ③ \text{ に代入} \\ x - 400 = -250 \\ x = 150 \end{array}$		
6. 全体で確認する。		○次時に学習する $A=B=C$ の形の方程式について伝える。
7. 振り返りをする。	5	○3つの条件から3種類の式ができ、そのうち2つを用いれば連立方程式として解を求めることができることを伝える。

◆評価項目 (思考・判断・表現)

生徒の発言やワークシートの記述から、「2つの条件だけでは連立方程式がつかれない場合があることに気づき、複数の条件を組み合わせることで解の求め方を考えることができているか」を評価する。

〔成果〕

- 身近な課題で取り組みやすく、導入からの流れがスムーズだった。方程式が解けないという体験を全員で共有できたため、本時の学習のめあてに向けて取り組もうという姿勢をつくることができた。
- あらかじめ想定していた振り返りの内容が生徒の記述の中に見られた。生徒の変容の様子から、学びが深まった様子が見られた。

〔課題〕

- 話し合いをしているところもあったが、ただ悩んでいるだけで解決に結びつく話し合いができない生徒も見られた。話し合いの視点を明確化して、積極的に話し合えるようにできるとよかった。
- ヒントカードの種類が少なく、うまく活用しきれなかった。生徒の実態をもう少し把握できていれば、よりかみ砕いたヒントカードが用意でき、多くの生徒を支援できた。

数学科の実践Ⅱ

令和5年10月3日 第1校時
3年1組（男子14名、女子15名 計29名） 3年1組教室
指導者 町田 実

授業の視点

2乗に比例する関数になる条件を表示し、ヒントカードを提示したりや友達と相談させたりしたことは、問題解決に有効であったか。

1. 題材名 関数 $y = a x^2$
2. 本時のねらい
2つの数量の間にある関係を考察させる活動を通して、2つの数量の関係を式に表し、 y が x の2乗に比例する関数と判断することができるようにする。
3. 授業の流れ(全19時間予定 本時10時間目 「つかう」過程)

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援
1 既習事項を確認する。 ○2つの数量の関係から比例、反比例、1次関数、2乗に比例する関数になるための条件を確認する。	5	○式 $y = a x^2$ に表すことができると、2乗に比例する関数であることが分かることを伝える。
2 めあての確認をする。 めあて 2つの数量の間にある関係について、 y を x の式で表し、その中から y が x の2乗に比例する関数になるものを見付けよう。		○めあてを知らせる。
3 問題を把握する。 ○比例、反比例、1次関数、2乗に比例する関数になる問題を提示する。	5	○めあてを再度確認する。
4 問題の①の解き方を確認する。		○表を作成してから、式を作成することを説明する。
○問題 次の2つの数量 x 、 y の関係は、「ア比例」「イ反比例」「ウ1次関数」「エ2乗に比例する関数」のどれにあてはまりますか。 y を x の式に表し理由を付けて答えなさい。 ① 球の半径を x cm、その表面積を y cm ² としたとき、球の半径が1 cmならば表面積は 4π cm ² になる。 ② くぎの本数を x 本、その重さを y gとしたとき、くぎ15本の重さは60 gになる。 ③ 深さ45 cmの水そうに、3 cmの高さまで水が入っている。水を入れ始めてからの時間を x 分、水面の高さを y cmとし、この水そうに1分間に2 cmの割合で水面が高くなるように水を入れる。 ④ 仕事にかかる日数を x 日、仕事に必要な人数を y 人としたとき、この仕事を12人で行くと9日間かかる。 ⑤ ふりこの左右一往復にかかる時間を x 秒、ふりこのひもの長さを y cmとしたとき、ふりこのひもの長さが100 cmならばふりこの左右一往復にかかる時間は2秒だった。ひもの長さを400 cmにすると時間は4秒になり、ひもの長さを900 cmにすると時間は6秒になった。		
5 問題を解く。 ○個人で考えてから、ヒントカードを出し、次に友達と考える。	個人 10 友達 10	○個人：つまずいている生徒に指導する。 ヒントカードを送信する。 <個への支援> ○Aの生徒：個人で考えた後、分からない生徒に教える。 ○B・Cの生徒：ヒントカードを確認させて個人で解かせる。個人で考えた後、友達と相談させる。
6 答えを確認する。 ○正解した生徒が説明する。	15	○発表の補助に入る。 発表できない場合は、教師が行う。
7 本時の振り返りをする。 ○2つの数量の関係から式をつくり $y = a x^2$ になれば、 y は x の2乗に比例する関数になる。	5	○本時のめあてを確認する。 ・ y が x の2乗に比例することが分かった根拠を確認する。 ① y を x の式で表す。 ② $y = a x^2$ になる。

【評価項目】

○おおむね満足 具体的な数量の中の2つの数量の間から2乗に比例する関数であることを判断できる。(思考・判断・表現：ワークシート、発言)

〔成果〕

- ◎生徒への指示が的確で、取り組みやすく流れがスムーズだった。つまずいている生徒にロイロノートで適宜ヒントカードが配布され、生徒が解くときの支援となっていた。
- ◎個人で考える時間、友達と考える時間が十分確保されていて、生徒がじっくり考えることができた。

〔課題〕

- 立式するときの考えの過程を書かせることで、より深まる展開となった。
- 表から立式するのにつまずいている生徒がいたので、それについてのヒントカードがあったほうが効果的であった。

理科の実践 I

令和5年9月27日(水) 第3校時 於：理科室

1年1組 指導者 小幡 儀見

＜授業の視点＞

本時に与えた観察教材（コーヒー粒）が「溶質が溶媒に溶ける現象」の本質（微粒子となり溶液全体に均一に拡散すること）に迫るための一助として有効であったか。

1 単元名 「身のまわりの物質とその性質」～3章「水溶液の性質」～

2 本時の学習

(1) **構のねらい** 物質が水に溶ける現象を観察させる活動を通して、物質が水に溶けるという現象を言葉や粒子モデルを使って説明できるようにする。 ＜知識・理解＞

(2) **準備** ・ビーカー15個 ・角砂糖 ・コーヒー粒 ・葉包紙 ・モニター・ワークシート

(3) **展開**

主な学習活動 主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点、及び支援
<p>1 前時の復習をする。(2分)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>2 本時の学習のめあてを知る。(8分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「溶けた」と判断した理由は？</div> <p>S: 「見えなくなったから」「消えたから」「透明になったから」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「砂糖が溶けた」とは「砂糖」がどうなってしまったことなの？</div> <p>S: 「水に混ざる」「水と同一化する」「ちっちゃくなって見えなくなる」 「消える」「なくなる」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">科学的に説明するには「溶ける様子を改めてよく観察して」少し言葉を補ったり、整理したりする必要があるそうだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">＜めあて＞ 物質が水に溶けるとは、その物質が水の中でどのようなになってしまう現象なのかその「正体」を解き明して、説明できるようになる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「溶質」「溶媒」「溶液」「水溶液」という言葉の定義を確認させる。 ・水に砂糖を溶かす演示を行い、「溶けきった」時点を指摘させる。 ・全員に現時点での「溶ける」という現象のイメージを言語化させ、全員に発表させる。 <p>※「消える」「なくなる」という誤解を解く。 演示実験をする。(「質量の保存」「味」) ※感覚的に溶けるという現象をとらえており、他人に説明するには「本時の事象の観察」を通して言葉の補足や精選をしていけばよいことを伝える。(解決の見通し)</p>
<p>3 観察実験を行う。(15分)</p> <p>①角砂糖の溶解を観察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">水に「角砂糖」を入れたときの「水中での角砂糖の変化」についてどんな気付きでもよいから記録しよう。</div> <p>S: 「崩れた」「モヤモヤがでた」「煙みみたいなものが広がっていった」</p> <p>②コーヒー粒の溶解を観察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">砂糖は白色で観察しづらい。そこで有色の「コーヒー粒」に変えて観察してみよう。</div> <p>S: 「どんどん粒が砕けて細くなる」「小さくなって煙みみたいになる」「どんどん広がっていく」</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>4 観察実験の結果を共有する。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなの気付きを集約すると「本時</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組で観察実験を行わせる。 ・2人で気付きを共有してよいこととしてワークシートに気付きを記入させていく。 ・机間指導で記入に戸惑うチームを支援する。 ・ワークシートに追加記入させていく。 ・机間指導の中で、「砕けていく」「細くなる」「小さくなる」「煙みみたいに見える」「やがて粒は見えなくなる」「<u>広がって液全体に色が付く</u>」等、キーワードとなる気付きに賞賛を与える。 ※この後の結果の共有場面での発言を促す。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・自由発表および意図的な指名発表をさせる。

<p>のゴール」にたどり着けそうだ。 どんどん発表してほしい。</p>	<p>・「粒が小さくなっていく事実」「粒が広がっていく様子」という視点に分けて集約していく。</p>
<p>5 「物質が水に溶ける」という現象を言語化する。(10分)</p> <p>「物質が水に溶ける」という現象の「正体」を説明するには3つのことについて言葉にしてまとめます。</p> <p>S: 「①物質がどんどん小さい粒になる」 「②その粒が液全体に広がる」 「③もう一つは何ですか？」</p> <p>◎物質が水に「溶ける」という現象の正体は、物質が「目で見えないほど小さな粒(微粒子)」になって、「均一」に広がり、液全体は「透明」になることである。</p>	<p>・「水に溶けるという現象」を説明するには3つの要素が必要であることを知らせる。</p> <p>① (目で見えないほど) 小さな粒になる。 ② その粒がやがて全体に(均一)に広がる。 ③ やがて水溶液が(透明)になる。</p> <p>※「透明」の定義はここで教える。</p> <p>・モデル図をまとめながら、3つの要素を含む説明文章例を考えさせていく。</p>
<p>6 本時の学習内容のまとめをする。(5分)</p> <p>・物質が水に溶けるという現象を「文章」と「モデル」でワークシートに各自まとめる。</p>	<p>・自分なりの言葉で説明する練習をさせる。</p> <p>◆評価項目 (知識・理解)</p> <p>ワークシートへのモデルや文章の記述及び説明練習の様子から「溶ける」という現象の本質を理解できているかを評価する。</p>
<p>7 学習の振り返りをする。(学習を活用する。)(5分)</p> <p>本時に分かったことをぜひ活用しましょう。そこで宿題です。 今日、家に帰って家族の誰かに「ものが水に溶けるってどういうことだか説明できる？」と尋ねなさい。多分、今の君たちほどきちんと3つの要素を答えられないでしょう。そこで、ちょっといい気になって「言葉と図を使って教えて(説明して)あげてください。」それが宿題です。 次回、親(家族)がどんな反応をしてくれたか全員に聞きますよ。頑張る。</p>	

〔成果〕

- ◎「観察に適した教材(コーヒー粒)」や「2人組の検証活動」を与えたことにより、一人一人が積極的に活動に取り組み、予想・結果・考察等をしっかり自分なりの言葉で表現できていた。
- ◎「予想」と「観察結果」が板書やワークシートにしっかり残せており、自分達の考え方の変容がはっきり確認できるようになっていた。
- ◎「考察の段階」で「3つの要素(視点)」を与えて思考を整理させたことが、「まとめ」の段階の自分なりの文章表現を作り上げるための拠り所(解決の見通し)となっていた。

〔課題〕

- タイムマネジメントの難しさ。「粒子モデルで考える活動」と並列しながら「まとめの文章」を作らせたかったが、「モデル化する場面」まで行き着かなかった。
- 「無くなる・消える」と「見えなくなる」の違いや「透明」等の言葉の定義を次時にしっかり押ささせたい。

理科の実践Ⅱ

令和5年10月2日 第5校時

2学年2組（男子9名、女子10名）理科室 指導者 篠澤敦子

授業の視点

だ液のはたらきと性質について理解を深める場面で、前時の実験結果のどれとどれを比較したらよいか話し合い考察する活動を取り入れたことは、科学的な思考力や判断力を育成し、それを表現する上で有効であったか。

1 単元名 生物のからだのつくりとはたらき 「動物のからだのつくりとはたらき」

2 本時のねらい

『だ液のはたらきと性質について話し合おう』の活動を通して、だ液の実験結果を表などにまとめたり、対照実験を比較したりし、それをもとにだ液のはたらきと性質について話し合ったり、自分の考えを持ったりすることができるようにする。

3 展開

主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
1. 前時の実験の結果を確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「消化」や「ヨウ素溶液・ベネジクト溶液」の変化について振り返り、既習内容の確認をする。
2. 本時のめあてを確認する。		
<p>めあて（前時のだ液の実験結果をまとめたり、比較したりして）だ液のはたらきと性質について、（理由をもとに）説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実験の結果をまとめよう。 ②どの結果とどの結果を比較したらよいか、話し合おう。 ③実験の試験管内でどんなことが起こったのか、話し合おう。（だ液のはたらきと性質について理由をもとに説明しよう。） 		
<p>めあて 『（前時の実験結果をまとめたり、比較したりして、）だ液のはたらきと性質について、（理由をもとに）説明しよう』</p>		
<p>3. 前時の実験結果を一人一人ロイロノートに分かりやすくまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉で記入しよう。 ○表を利用しよう。 A：青紫・デンプンあり B：変化なし・茶色・デンプンなし C：変化なし・水色・加熱後は赤褐色沈殿・糖あり D：水色のまま・変化なし・糖なし ○写真を貼ろう。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の「だ液の実験」結果を、ロイロノートの表に文章や写真を使ってまとめさせる。分からないところは班で協力してまとめる。 A(だ液+デンプン溶液+ヨウ素液)：青紫色 B(水+デンプン溶液+ヨウ素液)：茶色(変化なし) C(だ液+デンプン溶液+ベネジクト液)：水色(変化なし) 加熱後：赤褐色沈殿・橙色 D(水+デンプン溶液+ベネジクト液)：水色(変化なし) 加熱後：水色(変化なし) ※「変化なし」という表記はせず、色を記入させる。 ※デンプンや糖の「ある・なし」だけでなく、色の結果を結果とし、「ある・なし」は考察とする。 ・早く終わった場合は、考察を考えさせる。
<p>4. 班で交流し、どの結果とどの結果を比較したらよいか話し合い、どんなことが分かるのかを話し合う。班ごとに資料を工夫し、理由をもとに発表の準備をする。</p> <p>○表の横に、比較して分かっ</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ・対照実験の考えを確認する。 ・「ヨウ素液」「ベネジクト液」それぞれで分かることを確認する。 ・実験結果のどの結果とどの結果を比較すると、どんなことが分かるのかを考え、その組み合わせを話し合わせる。(ABCDのどの組み合わせにするか。) ・「だ液入り」ではなく、「水」だけを入れた実験

<p>たことを記入しよう。 ○⇒などを利用して分かりやすくしよう。</p> <p>5. ロイロノートを利用していくつかの班が発表する。</p>	10	<p>を行うことの意味を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを利用して、理由をもとに発表ができるようにさせる。 ※「デンプンがなくなり、糖が生じた。」だけではなく、「デンプンが糖へ変化した。」ことに気付かせる。 ※表や、⇒を利用して、分かりやすくまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・班の理由を、ロイロノートに投稿させ発表させる。 ・必ずどの結果とどの結果からどんなことが分かったのか、理由を入れながら発表させる。
<p>6. 本時を振り返る。</p> <p>次時の内容を聞く。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「だ液のはたらきと性質」について本時で分かったことをノートにまとめる。

<p>【評価項目】(思考・判断・表現)</p> <p>○おおむね満足</p> <p>だ液のはたらきと性質について、「デンプンを糖へ変化させる(分解する)」ことを実験結果を比較することから気付いたり、自らの考えを表現したりできる。</p> <p>(方法: 発言・行動観察・記述分析)</p>
--

〔成果〕

- ◎生徒は、協力しながら話し合い活動に参加し、意欲的に取り組んでいた。
- ◎本時に至るまでの授業計画や準備がよくされていた。
- ◎本時のめあてが明確で、また、生徒に身に付けさせたい「科学的な見方・考え方」がはっきりしていた。
- ◎ロイロノートを使うことで、作業の効率化が図れるとともに、共有の方法が簡素化されていた。
- ◎TVのモニターとスクリーンと二画面あり見やすい。
- ◎一人一人への個別の机間指導ができていた。

〔課題〕

- 前時の確認をするのに時間をかけていたが、しっかり理解できていた生徒が少なく感じられた。
- 生徒の「知りたい!」を生かせる授業を展開できるよう、説明の簡素化や振り返りの方法など工夫をし、生徒が思考できる時間長く確保するようにする。
- 話合いの目的やポイントが理解できていない生徒がいたので、「実験結果がどうなると何が分かるのか」を理解して活動できるように工夫が必要である。
- 理科室の教卓の向こうだと、教師との距離感を感じてしまうので、できるだけ説明は短い方がよい。
- 全体説明は生徒が落ち着いてから行うとよい。

英語科の実践 I

令和5年7月19日（水）第3校時

3年生教室 指導者 林 秀紀

授業の視点

事前に考えたキーワードを参考に、ALT の質問に答えることは、ALT とのコミュニケーション活動を活発にするのに有効であったか。

1 単元名 イングリッシュサーキット

2 本時のねらい

事前に考えたキーワードを元にこれまで学んだ英語を使って、ALT と自分の考えを伝え合ったり、即興会話を反映させて ALT とのコミュニケーションを積極的に行ったりできるようにする。

3 展開（全3時間予定 本時は3時間目 「まとめる」過程）

学 習 活 動	時 間	指導上の留意点及び支援
<つかむ> 1. 本時の学習への見通しをもつ。	5	○英語授業の雰囲気を作るために、Classroom Englishを活用する。 ○本日の流れを知ったり、ALT の自己紹介を聞くことで雰囲気に慣れさせる。
【めあて】 5人のALTとこれまで学んだ英語を使って即興的に自分の考えを表現しよう。		
<追究する> 2. 各テーブルに分かれ ALT と150秒間の英会話をパターンを変えて5回行う。 3. ALT と会話してないときは回答の確認や会話の振り返りをする。	40	○英語の会話が盛り上がるように、タイムマネジメントやよい雰囲気作りをして生徒達が意欲的に活動に参加できるようリードする。 ○振り返りを書いている生徒には、次の会話に生かせそうな振り返りが書けるようにアドバイスをする。 ○振り返りが書き終わった生徒には、まだ聞かれていないパターンの質問について、自分のキーワードからどうやって答えるのか考えさせる。 ○会話が続かなそうな生徒には、ゼスチャーや単語で答えても平気であるということを伝える。 ○会話の回数が増すごとに、コミュニケーションの質が高まるように声をかける。
<まとめる> 4. 単元全体のまとめをする。	5	○ALT の感想やアドバイスを聞いて、今後の英語学習に生かせるようにさせる。

【評価項目】（思考・判断・表現）

事前に考えたキーワードを元に、ALT とこれまで学んだ英語を使って即興的に自分の考えを表現し、会話を続けることができる。（方法：評価シート）

〔成果〕

- ◎ ALT との会話の回数が増えるたびに自信をもって伝えようとする姿が見られた。
- ◎ 英語を話さなければいけないという場面設定がされていたので、生徒達は意欲的に参加していた。
- ◎ ALT との会話を待っている生徒達への指示ができていたので、待っている時間を有効に活用できた。
- ◎ ALT が生徒の英語の学力に応じて、対応を考えてくれたので生徒達は楽しく活動できた。

〔課題〕

- 指導に生かす評価指針がはっきりしていないように見えた。また、学習が深まった姿がどのような姿なのかが分かりづらかった。
- 生徒への指示の回数が多かったりやタイミングよくなかったりすることがあった。また、始めから、オールイングリッシュで授業を通すことが大切であった。
- 生徒によって英語の学力にギャップがあり、楽しく活動できた生徒と辛かった生徒がいた。

音楽科の実践 I

令和5年6月27日(火) 第1校時

音楽室 授業者 中村亮太

【授業の視点】

音源を聴いて、グループで意見交換し、音楽の特徴や感受を考えたことは、曲想と音楽の構造との関わりについての考えを深めるのに有効であったか。

1. 題材名「曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう」

2. 本時の学習(全3時間予定 本時は3時間目)

(1) 本時のねらい

「運命」の音楽の特徴を、知覚したことと感受したことを関連付けながら考え、紹介文としてまとめることができるようにする。

(2) 展開

主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
1. 前時までの学習を復習する。 (1) ベートーヴェンについて確認する。 (2) 前時で聴いた「提示部」「展開部」を聴く。 2. 本時のめあてを確認する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントを使用して、視覚化する。 ・ 前時で聴いた部分の感じたことを周りの人と話すように促す。
めあて: 「運命」の特徴を探り、紹介しよう。		
3. 曲を深める。 (1) 「再現部」「終結部」を聴き、音楽の特徴と感じたことを書く。 (2) グループで意見を共有する。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれ繰り返して流す。 ・ 感じたことを書くのが苦手な生徒には、「思考の言葉」の中から選ぶように促す。 ・ 「再現部」「終結部」をそれぞれ分けて共有する。 ・ 「再現部」は「提示部」と似ていることを思い出させて、比較して聴けるように「提示部」も流す。 ・ 共有時に他者の意見を色ペンで記入することを促す。
4. 紹介文をつくる。 (1) 学んだことを生かして、紹介文を書く。 (2) 隣同士で読み合う。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだことや自分で感じたことを交えて書けるように促す。 ・ 書くのが苦手な生徒には、教科書やワークシートを参考に書くよう促す。
5. 本時のまとめを行い、振り返りをする。 (1) 本時の学習で学んだこと、振り返りを Google Form に記入し提出する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果を実感させ、生徒の意欲を認める声掛けを行う。 ・ 本時のめあてを意識した振り返りができるように促す。

【評価項目】(思考・判断・表現)

「運命」の音楽の特徴を、自分の感受と関連付けながら考え、紹介文としてまとめることができているかを評価する。(方法: ワークシート、観察)

〔成果〕

◎ 4つの部分に分けて鑑賞したことで、深く感受して考えることができた。また、思考の言葉を掲示しておいたことで、苦手な生徒も意見を書くことができた。

◎ 個人だけでなく、グループで意見を出し合うことによって、他者の考えが加わり考えを深めることができた。

〔課題〕

● 紹介文をロイロノートで書くことで、共有しやすくなる。深くまで捉えられている生徒の記録をその場で共有すると、より深く学ぶことができる。

● 本時のゴールを明確にする。紹介文を前に出すと、内容を深めることができる。

● 話合いが活発になるように、意見の交換で終わりにせず疑問点などを聞き合うようにするとよい。

保健体育科の実践 I

単元名「バスケットボール」〔学指要領：E、2学年、ア〕

令和5年11月30日（木） 第2校時 体育館

2年2組 指導者 星野 颯

授業の視点

チームで話し合いをさせる場面で、ICT 機器で確認させたことは、自分やチームの課題を見つけさせる上で有効だったか。

I 単元の構想

I 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによって、ゴール前での攻防をすること。 ・攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの基本的な動きや知識などを理解している生徒が少ない。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の課題を他者に伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見付けられる生徒が少なく、見付けた課題を積極的に他者に伝えられる生徒も少ない。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイに取り組もうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康安全に気を配ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技に対して積極的に取り組む生徒は多く、仲間の学習を援助しようとする生徒は多い。しかし、話し合い活動を活発に行える生徒は少ない。

2 評価規準

知識	①バスケットボールの基本的な知識、ルールなどを理解している。
技能 ※保健体育科対応	①シュート・パス・ドルブル・キープなど基本的なボール操作ができること。 ②攻撃時に、ボールを持っていないときの動きで、得点を狙ってゴール前に走り込むことができる。
思考・判断・表現	①ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防などの課題を発見できること。 ②自己課題について、自己や仲間が思考し判断したことを、言葉や文章で表したり、伝えたりできる。
主体的に学習に取り組む態度	①体力や技術の向上を目指し、積極的に取り組んでいる。 ②自己課題の解決に向けた、話し合いの場面などで自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加している。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全8時間：本時第5時） ※観点別に、評価規準の数字を記載

時	学習活動	評価機会			
		知	技	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの基本的な知識、ルールを学ぶ。(あ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 単元の課題：攻防などの自己課題を発見し、自己や課題の考えたことを他者に伝えながら技術の向上を目指す。 </div>	①			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作を知り、技術の向上を目指す。 		①		①
3	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作の反復練習を行い、技術の向上を目指す。 		①		①
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボール操作を活用し、簡易的なゲームに取り組み課題を見付ける。 		②	①	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行い、チームで話したり、自分の動きを確認したりしながら課題を見付ける。 			①	②
6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分やチームの課題に合った練習を行い、ゲームに生かす。(人数・場面) 			②	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・試合を行う中で、チームごとの課題を見付け解決に向けて話し合いをする。 			②	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめのゲームをする。 	総括的評価			

*活用する学習支援ソフト等：(あ) クロームブック

II 本時の学習(5/8)

- I ねらい 簡易的なバスケットボールのゲームにおいて、チームでの話し合いや自分の動きを ICT 機器で確認することで、自分やチームの課題を見付け、さらに解決方法を見付けられるようにする。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童・生徒の反応[S]	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 基本的な動きの反復練習をする。(10分)</p> <p>2 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(8分)</p> <p><めあて> チームで話し合ったり、自分の動きを確認したりして、自分やチームの課題を見付け、解決方法を見付けよう。</p>		<p>○基本的な動きができるように、意識をして練習できるように促す。</p> <p>○今日のめあてを意識できるように、前時の復習を振り返りながら、生徒とめあてを考える。【★提示・配布】</p>
<p>3 簡易的なゲームをする。(15分)【★撮影】</p> <p>「ボールを持っていないときに声を出したり、積極的に動いたりしよう。」</p> <p>S:パスをもらう動きに気を付けよう。</p>		<p>○3対2の試合をし、トラベリングやダブルドリブルなど簡単なルールは守るように意識させる。</p> <p>○ゲームをしていないときは、ギャラリー(上)から、動画を撮る。</p> <p>○個人のボール技術だけでなく、ボールを持たないときの動きも意識してゲームをするように助言する。</p>
<p>4 チームで集まり、個人で動画を見たり、話し合いをしたりしながら課題を見付ける。(7分)【★動画視聴・個人入力】</p> <p>「どうしたら、ゴールを決められたのだろうか。」 「どうしたら、パスが通るのだろうか。」 「どんな動きが得点や守りに繋がったかな」</p> <p>S:シュートを打つ場所かな。 S:どこから打つのが入りやすいかな。 S:パスを貰うときに、マークを外すためにはどうしたらいいのだろう。</p>		<p>○ゴールするためには、何が必要なか問いかける。</p> <p>○チームで話し合いをしながら、課題を見付けられるように問いかける。</p> <p>○自分の動画を見ながら考える。</p> <p>○ボール技術だけでなく、ボールを持っていないときの動きにも着目するように問いかける。</p> <p>◆評価項目(思①) ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防などの課題を発見できているかを評価する。</p>
<p>5 チームで、見付けた課題の解決方法を考える。</p>		<p>○課題を克服するために必要な動きを考える。</p> <p>○解決方法が見付からない場合は、どんな練習があるか、何を意識するかをアドバイスする。</p>
<p>6 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る。(10分)【★データの保存・提出】</p> <p><まとめ> チームで話し合ったり、自分の動きを確認したりして、自分やチームの課題を見付け、解決方法を考えることが技術力の向上やボールを持たないときの動きを身に付ける上で大切。</p>		<p>○めあてが達成できたかを問いかけ、気付いたことや感じたこと、できるようになったことを学習カードに入力し、提出させる。</p>
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題は、ボールの基本操作ができないこと。 ・ボールを持たないときの動きができないことが課題、今後はよいところに動いて行けるように練習していきたい。 		

〔成果〕

- ・生徒同士の関係性がよい。
- ・課題や解決方法を具体的に考えられるように、例を示したり、言葉かけなどを行えたりした。
- ・生徒への適切な助言があった。
- ・動画で試合を撮影したことで、課題が見付けやすくなった。

〔課題〕

- ・チームの課題を見付けあとに、自分の課題を見付けさせるとい。順番を入れ替えることで、チームでの自分の役割を見付けやすくなるかもしれない。
- ・男女別に行っていることを生かし、お互いに試合を見てアドバイスしたり、比較させたり、評価させたりすると面白いかもしれない。
- ・1時時間ごとに、課題のポイントを絞る。(パス・ドリブル・シュート)
- ・動きがあったり、ゲーム性があったりするウォーミングアップのやり方をした方が楽しく行える。

道徳科の実践 I

令和5年12月12日 第3校時 3年1組教室 指導者 高坂 拓歩

<授業の視点>

ホワイトボードを使いながら友達と意見交流をし、その場に応じた礼儀について考えたことは、礼儀の意義や状況に応じた礼儀について生徒が考えを広げ、深める上で有効であったか。

1. 主題名 場に応じた礼儀 (内容項目：B-7 礼儀)

2. ねらい

その場に応じた礼儀について話し合う活動を通して、礼儀の意義や状況に応じた礼儀を考えられる判断力を育てる。

3. 教材名 「礼儀って何」 明日への扉3

4. 本時の学習

(1) 準備 教師 スライド、ワークシート、教科書、タブレット 生徒 教科書

(2) 展開

過程 時間	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
導入 5分	1 本時のめあてを把握する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発問① 日々の生活で「礼儀」を大切にしていますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・星5。先生や友達、後輩に対する礼儀を意識しているから。 ・星2。あまり「礼儀」を意識して生活できていないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○星1～5つで自己評価させ、理由も考えさせる。 ○本時の主題に対する意識をもたせる。
	めあて 場に応じた「礼儀」について考えよう	
展開 40分	2 資料から考える。 ○資料を読む。	○朗読音声を聞きながら資料を読む。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発問② 「ガッツポーズ」について、Aさん～Eさんの意見をまとめましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさん…不支持。相手への感謝、礼を大事にすることが大切。 ・Bさん…支持。スポーツとして喜びの表現は自然。 ・Eさん…どちらとも言えない。形だけの礼は嫌だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホワイトボードを使って、班ごとに分担し、Aさん～Eさんの意見をまとめる。 ○「支持・不支持・どちらとも言えない、のいずれか」「どんな意見をもっているか」をまとめる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発問③ あなたは「ガッツポーズ」を支持しますか。</div>	
	<p><支持></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝った瞬間に喜びがあふれるのは当然だ。 <p><不支持></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を敬う上で、ガッツポーズはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「支持・不支持・どちらとも言えない、のいずれか」とその「理由」を考えさせる。 ○個人で考えたあと、グループで意見交流をし、考えを広げさせる。

	<p><どちらとも言えない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道の礼儀を考えればやらない方がいいとは思いますが、実際に自分が勝ったらやってしまいそう。 	
	<p>発問④ 「礼」や「挨拶」など、礼儀をつくすことのよさは为什么呢。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に対する尊敬や感謝の気持ちを表せる。 ・お互いを大切にできる。 ・だれもいやな気持ちにさせない。 	<p>○個人で考えたあと、グループごとのホワイトボードにまとめ、それを全体で発表する。</p>
終末5分	<p>3 話し合ったことをもとに自分の考えたことをまとめる。</p>	
	<p>発問⑤ 日々の生活の中でどのように「礼儀」を大切にしていいたらよいでしょうか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じて、望ましい態度・礼儀を考え、実践する。 ・相手を思い、敬い、相手のことを大切にする。 <p>○「自分への振り返り」を記入し、本時の振り返りをする。</p>	

◆評価項目

生徒の発言やワークシートの記述から、「礼儀の意義や状況に応じた礼儀について自分の考えを広げ、深めているか」を評価する。

〔成果〕

- ◎ホワイトボードが有効に活用されていた。生徒それぞれの意見が見やすく、分かりやすくなり、生徒が礼儀の意義や状況に応じた礼儀について考えを広げ、深める上での手助けになっていた。
- ◎話し合いについて、普段からの流れができあがっており、生徒たちは教師の指示を受けてすぐ話し合うことができていた。生徒たちは話し合いに主体的に取り組んでいた。

〔課題〕

- 発問の数が多かった。話し合う時間が少ない場面も見られたので、発問は精選し、1つ1つの発問に対して生徒がしっかり考えを深められる時間が取れるとよい。
- 題材の内容からもう少し早めに離れられるとよい。題材の内容ではなく、中心となる価値項目について、生徒が考えを深められる時間がもう少し取れるとよかった。